

「太古の昔から自然界に存在する放射線」があるから、そんなに心配しなくても大丈夫……。文科省が全国の学校に配布した『放射線副読本』ではそう書いてあります。本当にそうでしょうか。

生物進化40億年の歴史が教えていることは、宇宙線や紫外線といった宇宙からの放射線によってたくさん生物が絶滅し、地球上に降り注ぐ宇宙線を防ぐヴァンアレン帯やオゾン層の生成によって、ようやく生き延びてきた

生物種が現在の地球上に存在しているということ

です。そして、今回の福島第1原発事故は、これ

までの進化の歴史で生物が出あったことのないきわめて危険な環境をつくりだしました。『放射線副読本』にはそうした事実は書いてありません。

また、「放射線は暮らしや産業でも広く利用されている」と書かれています。でも、私たちがエックス線検査を受けるときに目にするように、その作業に従事している人たちの被ばく量が厳重に管理されている事実にはふれていません。

つまり、自然放射線であれ「広く利用されている」放射線であれ、人体にとって有害なことには変わりないのです。

東京民研理科部会は、「3・11」が私たちに問い直している教育の課題をずっと追究してきた。そのひとつの結果として、『放射線副読本』をどう教えるか」本質的な理解を深めるために」

冊子「『放射線副読本』をどう教えるか」

理科部会が刊行

という冊子を刊行しました。

『放射線副読本』については、「学校教育を通して子どもたちに安全神話を広げるものだ」という批判の声が教育関係者からあがり、学校現場からも「どう扱ったらいいか資料がほしい」という切実な要望が出ていました。私たちはこの副読本が放射線を知るのに適当なものとは考えていませんが、この副読本を使って教えることが強制されたり、マスコミを通

『放射線副読本』をどう教えるか
—本質的な理解を深めるために—



東京民研 理科部会

小佐野正樹

してさまざまなかんがんだ「安全神話」が流布されている状況をふまえて、科学の目で真実を見抜くための資料を考えて、教室ですぐに使える資料として作ったものです。

この冊子が学校現場で広く活用されることを期待しています。

(共同研究者)

※この冊子は分会を通して各職場に配布されています。入手希望の場合は東京民研事務局 までご連絡ください。